

フィールド風

(現場)からの風

宮田守男

ドイツの詩人、フリードリヒ・フォン・シラーは「時」の歩みを「未来はためらいつつ近づき、現在はずの矢のようにやく飛び去

り、過去は永遠に静かに立っている」と表現したが1月も今日で最後だ。博報堂生活総合研究所が調査した「オジサンって何歳からですか？」の回答結果の平均値は43歳。自分は若いと思っても、相手が感じる見方は実に正直だ。歳を重ねる毎に、月日の過ぎる事は美に早く感じる。浅田次郎さんの本に「医者には病を治すが、名医は人生を治す」という言葉がある。「もう歳だと引きこもらず」高齢社会に屈しない、名医が多いと称される地域づくりが求められているのだろう。

大北地域の幹線道路の国道148号線のトンネルは、事故情報も多く「怖いトンネル」と新聞報道されていた。昨年12月から木崎湖トンネル照明が水銀灯から、明るく電気代が安い発光ダイオード(LED)へ切り替えが行われた。高齢者や女性ドライバーから「トンネルに入って急に暗くなり、ヒヤッとした」体験が解消されたと評判が良い。湯原トンネル等も切り替えが終了、青木湖トンネルなど幾つかのトンネルも発注済みとの情

人生を治す名医が輝く 地域づくりが大切だ

報。LEDは白熱電球の約7分の1、蛍光灯の約2分の1の省エネ効果があるとの情報もあり、温室効果ガスの排出削減に取り組み長野県や大北地域の観光へのイメージアップ効果も大いに期待できるのではないだろうか。

1月6日から2月4日頃までの寒に降る雨を「寒の雨」という。1月下旬の雪不足の時期の雨は辛いものがある。この日は創業61年の白馬東急ホテルで白馬商工会の新春賀詞交歓会が開催され「松本しんきん信白会」を代表して参加する機会があった。毎年、村内外の参加者と新年を祝い、地域の発展と経済の活性化を楽しく語り合う機会。参加者は、志を持ち、それを持続させる地域を担うメン



小雨降る中、JR白馬駅前で大勢の外国からのお客さま。観光地での交通手段の必要性を実感する

に「AIに営業スマイル 審査され」。職場に「AI・人工知能」化が進む社会だからこそ、「人」が輝く地域でありたいものだ。(信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上)